

ボランティア養成講座

11月15日(火)午前中にボランティア養成講座を実施しました。様々な立場、環境の中で、熱い思いを持たれた方が多数ご参加くださいました。ご参加いただいた皆様ありがとうございました。また、ご応募いただいていたのに、ご参加できなかった方もおられます。この場をお借りしてお詫びとご報告させていただきたいと思ひます。

この講座では、発達障がいへの理解と関わり方のポイント、様々な障がいのある方とのコミュニケーションの取り方、生活介護の話、当センターでの実施しているボランティア活動について、施設オリエンテーションなどの座学と難聴・車いすの体験会を行いました。一部内容をご紹介します。

障がいのある子の理解と関わり方のポイント

講座の内容

1. 「知的発達症」とは？
「発達障がい」とは？
2. 子どもとの関わり方
3. 保護者に対して

実際におこなっている支援方法もご紹介しながら学んでいきました。

見てわかる環境（見える化）

メニュー

- ・自分の場所をわかりやすくする（椅子、机席、荷物棚など）
- ・自分の物をわかりやすくする（名前、代わり）

自分の物と友だちの物の区別を覚えさせよう

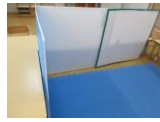


集中しやすい環境（見えない化）

整理

- ・ついでに
- ・集中しやすい環境をつくる
- ・色々な物が見えて気がなるため

自分の物のマークは...友だちが選んでる...



- ・マット（着替える場所をわかりやすくする）

生活介護について



利用者が使用している車いすをご紹介しますながら、生活介護が担う福祉的な役割について教えてもらいました。

様々な障がいのある方とのコミュニケーションの取り方

話しことば以外のコミュニケーションの手段

- 身ぶり・手ぶり・指さし
- 発声・口形
- 視線・表情・体の動き
- 絵・写真・文字

肢体不自由の方が、どのような手段でコミュニケーションしているか、事前情報と観察が大切です



ペアになり、一人は目でしか反応できない役を演じてもらい、もう一人は今食べたい果物を聞き出してもらう体験してもらいました。

体験会



車いす体験

車いすで介助する人と介助される人に分かれ、段差の上り下りを体験してもらいました。



難聴で補聴器を使用している人の疑似体験

CDを聞きながら、何の話をしているか聞き取ってもらいました。聴力だけでなく、口の動きやジェスチャーで視覚的にも伝えることで理解が深まることを感じてもらいました。

参加者の声

・市政だよりを見て、何気なく見つけた講座でしたがすごくためになりました。ボランティアにも興味がありましたので、ふみ出してみようと思いました。

車いすも大変勉強になりました。難聴の補聴器の聞こえ方もビックリでした。

・わかっていると思っていたことが、体験を通してまだまだ理解できていなかったんだと気づかされました。コミュニケーションをとれることが当たり前の中で、体験を通して障がいがあることで難しくなること、ちょっとした工夫でコミュニケーションをとることができることを学びました。

